

☆お知らせ:夏休み長期貸出・夏休み開館日程

- ◎夏休み長期貸出受付中: 6冊まで 返却期限日: 8月26日(月)
- ◎夏休み開館 7月26日(金)~8月9日(金)、20日(火)~23日(金) (土日除く)  
開館時間: 9:00~16:00

☆「家で本を買い与えて貰っているから、図書館で本を借りる必要は無い」って本当?

これはこれまで一部の生徒や以前おられた国語の先生から言われた言葉でした。本当にそうでしょうか? そこで、図書館担当者が、よく図書館を利用する生徒の皆さんとの会話の中で把握したり、あるいは単刀直入に聞いてみたりして真相を探ってみました。

【図書館担当者が利用生徒の皆さんと会話・質疑応答した結果わかったこと】:

図書館でよく本を借りている人は、家でも多くの本を与えられている。知的好奇心が旺盛で、しかも行動力が高いため、知りたいこと、読みたいものがあれば、手近な学校図書館も上手く利用して知識や読書経験を増やしている。

どうぞご参考に。



☆展示本を入替中:新着図書コーナー半分くらい・白いワゴン(新着・最近着読み物)

寄贈・紹介・リクエストの本をはじめ、物語・ノンフィクション・歴史関係など、1学期に入った図書の展示を進めています。そのほか、高校生のカウンターへの相談・進路希望調査の結果から、希望進路の分野に対応する図書を鋭意選書・購入中です。(建築学科関係の本を展示中です。心理学・教育学・(少年)犯罪関係は展示しきれていません。カウンターに声をかけてください。)



- ①『ノモンハンの夏』 半藤一利著 文春文庫:1939年のノモンハン事件の経緯とその後について、筆者なりの問題意識を以てまとめたもの。ある生徒からの紹介です。
- ②『学問で平和はつくれるか?』 京都大学大学院人間・環境学研究科編 京都大学学術出版会:学問に根差した平和学とは。京都大学の「自由の学風」をも窺い知ることのできる本。
- ③『[図説]ナチスに盗まれた美術品』 J. J. ロリマー他 著 パリジェン聖絵訳 原書房:ナチスが持ち去った美術品を探し当てるスリリングな任務の回想。回収された著名な作品群を見てみましょう。
- ④『父の逸脱 ピアノレッスンという拷問』 ラファエル著 新泉社:虐待の被害を経た医師の手記。
- ⑤『巨樹・巨木図鑑』 小山洋二著 日本文芸社:各々個性的な全国の巨木の姿を見てみよう!
- ⑥『レジリエンス人類史』 稲村哲也・山際壽一・清水展・阿部健一 編 京都大学学術出版会 人類がレジリエンス(=危機を生きぬく知)を発揮してきた出来事をたどり、未来を模索する。



☆読書の苦手な人・中学生にも親しみ易く、しかも上質な読み物を増やしています。

夏休み・読書感想文の課題あり、ということで、読み物の内、半分くらいは読書感想文の書き易そうなもの(皆さんが、読解や感想を深めることに堪える、内容の充実したもの)を意識して購入しました。それに加えて、皆さんの語彙力・漢字を読む力(書くことは、自分で書いて練習する必要があります)を付けることも考えて選書しました。今回増やした読み物は、偕成社文庫・岩波少年文庫からも十数冊選んでいます。豊富な語彙と、主な漢字にルビを付けた紙面で、語彙力と漢字の読み方を楽しく身につけましょう!!

※語彙力・漢字を読む力・国語力と読書:読書せずに漢字のドリルや問題集だけで漢字の読み書き全てを習得するのは、とても大変です。読書を楽しみながら、漢字の読み方を、文脈に即した意味合いも含めて吸収していくのが、最も楽で確実(忘れにくく、正確)な習得方法です。

読書を重ねていると、作文の際も、「書き言葉で書く」ことが無理なくできるようになります。国語の実力のある人は、読書経験も豊富なはず。読書は、国語力養成の軸となる言語活動です。スポーツで言えば、身体作りの基礎練習と練習試合を兼ねたようなものです。読書は好き嫌いに拘わらず取り組みましょう。



- ⑦『古森のひみつ』 ディーノ・ブツァーティ作 川端則子訳 岩波少年文庫 ⑦~⑫:白いワゴン展示中 木々の精や鳥、動物、風の精が交流し暮らす古い森。次第に、登場人物達は互いに抜き差しならない関係であることがわかってくる。やむにやまれぬ思惑からの行動が、思いもよらない運命を導く——読み応えのある物語。
- ⑧『死霊の恋 ポンペイ夜話』 テオフィル・ゴーチエ作 田辺貞之助訳 岩波文庫 赤574-1 吸血鬼小説の傑作の一つとされる「死霊の恋」など、幻想的なゴシック・ホラー5篇。
- ⑨『供述によるとペレイラは……』 アントニオ・タブッキ作 須賀敦子訳 白水社 白水Uブックス134 1938年のリスボンを舞台に、ファシズムと対峙する人間達を描く。
- ⑩『ジェニーの肖像』 ロバート・ネイサン作 山室静訳 偕成社文庫 少女ジェニーと出会った青年画家イーベン。イーベン自身の画家としての営みを軸に、イーベンから見たジェニーを感性豊かに綴る。
- ⑪『ぼくたちがギュンターを殺そうとした日』 ヘルマン・シュルツ作 渡辺広佐訳 徳間書店 いじめの挙句、恐ろしいことを企てる利己的な少年達。その時、主人公の取った行動は。
- ⑫『タイムマシン』 H・G・ウェルズ作 雨沢泰訳 偕成社文庫:「タイムマシン」を最初に考え出し、登場させた小説。奇想天外、スピーディな展開で現代文明とその未来の問題点を鋭く指摘する。